

連載

109

在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長

橋本 満義 (66歳・内科)

緊急
提言!!

今なぜ“漢方薬”が必要なのか? 西洋医学万能と思われる時代に—

人類のおごりなのか、この地球環境の激変とともに、あらゆる病が牙をむいて私たちに迫っています。つまり、生命の危機は、待たなしの状態なのです。私たちはあらゆる英知を集め、すみやかに行動すべき時なのです。



Q 先生、教えてください。最近、おばあちゃんが、認知症で不眠症、そして体力が著しく低下しているため、漢方薬(抑肝散)を飲んでいますが、この薬でいいのでしょうか?

A 診察しないと判断はできません。なぜなら、個人の体質(証)や病状(外因、内因、不内外因)によっては、加味帰脾湯、酸棗仁湯などへの薬剤変更や加減法など、微調整が必要だからです。

Q つまり、漢方薬の処方内容を決める場合、本格的な教育を長年受けた東洋医学(漢方医学)の専門医でないと、本当の効果が期待できないわけですね。

A そうなんです。私の場合は、昭和51年頃から昭和62年頃までの10年間、“東西医学”「東洋医学(漢方医学)と西洋医学の融合」の世界的権威者 有地滋先生*に師事しました。

*有地 滋
大阪大学医学部内科 助教授から近畿大学医学部東洋医学研究所 教授となり、東西医学分野での研究・臨床実績は広く認められています。

Q 橋本先生の診療所では、漢方薬も保険が適用できますか? また、健康相談もしたいのですが…。

A どちらも可能です。漢方相談(予約制)で対応しています。

Q そのほかの病気で漢方薬に期待できる分野はありますか?

A アレルギー疾患(鼻炎、皮膚炎)や夜尿症、成人病(糖尿病、高血圧症、心疾患)、排泄障害(便秘症、前立腺肥大症)、更年期障害、認知症など多彩にあります。

Q 最後に、西洋医学と東洋医学(漢方医学)の融合について教えてください。

A 西洋医学では、MRIやCTスキャンによる悪性疾患(がん)の早期発見や手術治療を中心に、その効果にはある一面、目を見張る素晴らしさがあります。しかし、先天性疾患や体質・年齢・老化による分野では、東洋医学(漢方医学)がその効果を発揮します。西洋医学を補完する東洋医学(漢方医学)ではなく、融合された第3の医学として新たに“東西医学”が登場したのです。



Message

もっとも命の危険が潜む夜間生活空間に“愛”と“光”を放ち、そして、安全・安心で幸せな世の中としましょう。

「自分が称賛されるためではなく、この仕事に名誉をもたらすために心して事を成し遂げていこう」

*ナイチンゲールの言葉

外来診療(かかりつけ医) 要予約 総合内科・漢方診療科

お医者さんが 24時間・365日体制で対応
来てくれる (松山市全域)

私たちは、質の高い
在宅医療・看護・介護を目指しています。



医師数 22名
(常勤8名、非常勤14名)

内科・外科専門医 18名
(国立がんセンター勤務歴有3名)
精神科専門医 2名
麻酔科専門医 2名
(ペインクリニック科)

末期がん治療(緩和ケア)
相談室開設!

Hyper Blood Viscosity (高血液粘度群)を科学する 臨床生命科学(体質・病態学、栄養学)研究所開設
「地方創生健康長寿研究会」平成27年4月1日発足

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所
(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>